



菅波 茂

11月11日、12日の2日間、AMDAマレーシア支部の誕生を祝福し、マレーシアの首都クアラルンプールで第19回AMDAインターナショナル国際会議を開催した。

マレーシアは毎年、インドネシア支部の置かれているハサデイン大学に医師50人の養成を委託している。マレーシア側の責任者は、マレーシア支部長に就任したオマール医師である。クアラルンプール市内の3カ所に医療機関を経営している。ジョークの好きな親分気質の53歳である。

97年に岡山経済同友会がマハティール前マレーシア首相を岡山に招待した会議で、質問をさせていたたく機会があった。「経済協力による連携

を基軸とする東アジア共同体にとつて、心を共にする可能性があるAMDA多国籍医師団の活動はどのように考えられるのか」と。「非常に意義がある。ただし、マレーシアは医師が少なく、参加できなくて申し訳ない。アジア太平洋経済協力会議(APEC)の討議事項としてもふさわしい」とコメントされた。

マハティール前首相は医師だった。私はオマール医師にこの会話を紹介した。そして彼に言った。「私はマハティール前首相にAMDAマレーシア支部の誕生を報告したいが構わないか」と。彼は言った。「ぜひとも報告してほしい」

今回の国際会議で話題になった「AMDA多国籍医師団活動」と「フィールドスタディープログラムの整備」について紹介する。

AMDAインターナショナル国際会議

最初はAMDA多国籍医師団活動について。紛争や災害被災者救援活動に大切なことは悲しみの共有と死者に対する敬意である。第二次世界大戦で亡くなられた方々のために00年に始めた慰霊活動ASMPP (AMDA魂と医療のプログラム)を、

次はフィールドスタディープログラムの整備について説明する。AMDA各国支部には、すばらしい医師やスタッフが活躍しているフィールドの現場がある。21世紀を担う日本の若者のために日本では準備できない教育の場として整備する予定である。

200年に一度と言われる大規模災害だったスマトラ島沖大地震・津波被災者救援活動を契機に、AMDA多国籍医師団が救援活動を行った被災地にも拡大することを決定した。

AMDAの使命は「平和へのパートナーシップ」という世界規模のネットワーク形成である。原点は共に苦勞をすることである。それにはルーがある。ローカルイニシアチブの尊重である。歴史、宗教そして共同体に関する見識は不可欠である。それに加えて平和、人権、公正などのコンセプトの理解と実践が伴って真の問題解決能力が期待できる。06年に向けて更にお役に立てられるように国際ネットワークの整備に尽力したい。(AMDA代表)

12月にインドネシアのパンダアチェ、スリランカのカルムナイ、インドのチェンナイで、日本と地元の聖職者で合同慰霊祭を予定している。被災地には可能な限りAMDAピースクリニックを設置、運営して日本の支援者からのメッセージを伝え続けることになった。

え続けることになった。